

第50回記念「艸丘展」の御案内



恒例の3同窓美術展(大阪・京都・東京)のトップを飾る大阪「艸丘展」は、今年、第50回を迎えます。

半世紀に亘って継続できましたのは、参加者全員のご努力は勿論ですが、98歳の最期まで出品を続けられ、毎年ご家族と来場して接客された創始者・堀田保氏(昭和6・図案科卒)の存在が大きかったことは忘れられません。創作の上での精進だけでなく、ご家族の協力の良さ、静かに穏やかに後輩を見守っておられる人望を慕う人は多く、毎年30名前後の出品者や多くの訪問者を得て活気づきました。

堀田保氏(書齋で、2005.11.筆者撮影) 応援やご協力頂きました方々に心より御礼申し上げますと共に、「第50回記念展」を盛り上げて頂きますよう、何卒、皆様のお力をお貸し頂きますようお願い申し上げます。

この展覧会の由来は、卒業後、クラスメイト4人で毎週、絵画の勉強会を「艸丘会」と名付けて励み、その作品の発表の場として、「後輩2人に招待で出品してもらって、6名で第1回展覧会を開催した」のが「艸丘展」の始まりでした。その一人、上田健一氏〔昭和8・図卒、鐘淵紡績(株)図案部長、ジャパンデザインサービス(のちのクラシエファッション研究所)代表取締役社長〕は学科の同窓会である松ヶ崎意匠会の第2代会長として活躍され、ご夫妻で後輩の面倒をよくみられ、艸丘展でも「組織作りが上手で、そのお蔭で参加者も増えた」そうです。上田氏歿後も毎年、夫人が展覧会場に御祝を持って来て頂き、「当時は皆、家族ぐるみで展覧会のお手伝いをして、慰安旅行にも出かけ、楽しかったことが忘れられない」と仰いました。会は山北氏(昭17・図卒)や大門氏(昭45・意匠卒)、福田氏(昭13・図卒)、芝野氏(昭19・建卒)等が参加して「初期から長年に亘って連続出品をして頂いていることも、この会の特色」と堀田氏は述べられました。

また、堀田氏は卒業後、5代、6代・清水六兵衛氏の右腕として文献制作や作品を守る勤務に活躍しながら、常に母校に関心を寄せ、読書家で、本野精吾教授に倣ってエスペラント語を勉強して流麗な文字の文章を残しておられます。また、書棚から古い『芸術新潮』を取り出して、先輩・白井晟一(昭和3・図卒)の記事を見せて「こんな立派な先輩がおられたと知って誇りに思いました。絵を描くだけでなく思想が大事。私も、まだまだ勉強せねばと思いました」とご自邸でお茶会の後、書齋兼アトリエで話をされました。

KIT 同窓会(当時は工大会)には終生、会費5カ年前納を続けられたことでも有名です。

大阪・心齋橋筋を南へ歩いた人気の高いギャラリーでの展覧会に、ぜひ皆様もご出品やご鑑賞を、ご家族やご友人とお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

平成30年9月28日(金)―10月3日(水)

11:00am~7:00pm (最終日は4時まで)

ナルミヤ戎橋画廊 2階会場

大阪市中央区道頓堀1丁目9-3

(地下鉄御堂筋線「なんば」⑭出口から北へ5分。

JR、近鉄、南海「難波」から戎橋筋商店街を北へ、

地下鉄「心齋橋」からは心齋橋筋を南へ13分)



* お問い合わせは、TEL 070-5665-7056 (石沢)までご連絡ください

< 昨年の展覧会のようす >

撮影: 艸丘展事務局 角矢有司氏(昭和43・意卒)

